



介助犬を知っていますか？

3

介助犬の現状と 身体障害者補助犬法



きむら よしとも 1960年大阪に生まれる。半導体製造会社勤務（コンピュータ・プログラマ）。日本介助犬アカデミー理事。財団法人ブラザー・コム評議委員。関西学院大学非常勤講師。厚生労働省・介助犬の訓練基準に関する検討会委員、介助犬及び聴導犬の認定基準等に関する検討会委員、介助犬訓練者研修カリキュラム検討会委員、兵庫県・介助犬認定基準等検討会委員。著書に『介助犬シンシア』（毎日新聞社）、『介助犬を知る』（名大出版）。

シンシアが介助犬となった七年前には全くと言っていいほど、介助犬の存在は知られておらず、スーパ―やレストランなどを利用しようにも、ペット扱いされ同伴拒否が続き、シンシアと一緒に出かけることが苦痛だった。これでは、何のための介助犬が分からない。ある時、こんなことがあった。

シンシア同伴でレストランに入ると、いつもの様に困った顔の店員に出迎えられた。

「介助犬です。きちんと訓練されているので、迷惑をかけることはありません。予防接種など健康管理もきちんとしています」と伝えた。しかし「ペットは禁止です。店長と相談します」と言ったきり一〇分以上も戻ってこない。ようやく戻って

きた店員の顔を見て「また、ダメか！」と思ったが、迷惑そうに「今日は特別です」と言われ、席に案内された。渋々でも、受け入れられればラッキーである。当然であるが、食事をしている間、シンシアは車椅子の側で静かに待っている。食事を終えて帰ろうとした時、店長が笑みを浮かべて話しかけてきた。

「賢いワンちゃんですね。聞き分けのないお子さんより、ずっと大人しいですね。ちなみに、お利口な介助犬なら、これからも一緒に来てくださいますか」と言われた。このことをきっかけに、「介助犬がきちんと訓練されており、他の人に迷惑をかける心配はないこと」を実際に見てもらうことが重要だと実感した。

当時も介助犬に関する情報がほとんど無く、公的に認められていない介助犬をどのように受け入れれば良いのか分からない施設が多かったのだ。

鉄道会社ともシンシア同伴の乗車について交渉した。シンシア同伴の乗車が認められるまでに、数ヶ月を要したが、この経過はマスコミで報道され、毎日新聞では「介助犬シンシア」と題する連載も始まった。その後しだいに、介助犬に関する講演依頼が入る様になり、協力してくれるボランティア

アも増えた。最初は、年に二〇件程度の講演依頼だったが、一〇〇件を超えるまでになった。

ボランティアから始まった優しい心の輪が徐々に広がり、宝塚市を動かし、兵庫県を動かし、国会にも超党派の「介助犬を推進する議員の会」までできた。議員の会では法律を作る準備を始め、シンシアと共に議員会館や厚生労働省へ何度も足を運んだ。立法の過程において関連省庁や関連団体から反対意見も出たが、昨年五月二十二日に「身体障害者補助犬法（以降、補助犬法）」がようやく成立した。

補助犬とは盲導犬・介助犬・聴導犬の総称であり、施設に補助犬の受け入れを義務付けた。また補助犬の質を確保するため、育成団体には良質な補助犬の育成を、使用者には補助犬の管理責任を義務付けた。さらに、厚生労働省より、補助犬の訓練基準や認定基準が示され、補助犬の認定審査を行う団体を厚生労働大臣が指定することとなった。

特に介助犬については、障害者の障害やニーズが多様であり、それらを的確に把握するため、介助犬の育成にはリハビリテーション医師、理学療法士、作業療法士などの医療従事者との連携が義務付けられ、リハビリテーションセンターでの合同訓練や認定審査も可

能となった。今年九月三十日には、兵庫県立総合リハビリテーションセンター（以降、兵庫リハ）が介助犬の認定法人として指定され、私とシンシアは兵庫リハでの認定試験に合格し、ようやく正式な介助犬として社会参加できるようになった。シンシアは人間の年齢では六〇歳にあたる、一〇歳を目前にした認定だった。

補助犬法は補助犬使用者にとって悲願の法律であるが、課題も残っている。受入拒否に対する罰則規定が無く、民間の管理する事業所（職場）や住宅については補助犬の受け入れが努力義務にしかなく、障害者が職場や住居を探すこと自体が難しい状況で、補助犬がさらなるバリアになりにかねないのだ。最後に補助犬が適切に普及し社会に受け入れられるためにも、国や自治体における啓発はもろろのこと、市民ひとりひとりが心のバリアフリーによって補助犬をあたたく受け入れて欲しい。

【編集部から】

三回にわたりました、エッセイ「介助犬を知っていますか？」は、今号をもちまして終わらせていただきます。木村さん、シンシア共々ますますのご活躍を。補助犬が、より受け入れられる社会になるように、微力ながら「働く広場」を通して応援していきたいと思っています。

